

# 次世代へつなぐ足腰の強い農業技術の基盤づくり

～成果をつないでスキルアップ～

活動対象：中富良野町旭中北三地区（6戸）

経営規模の拡大によりほ場が町内に点在している。H30年までに、国営基盤整備事業が終了しているが、基盤整備後の土壌化学性、物理性に変化が見られる。前年度作成したほ場管理台帳を用い栽培技術の改善と地力の維持向上を支援した。併せて、台帳の掲載内容や使用方法について農業者の要望を聞き取りバージョンアップに取り組んだ。また、世代交代が進みつつある団体の若手経営主や後継者へ、経営管理の基礎知識習得の支援を行った。

経営主の平均年齢：51才（30代2人、50代2人、60代2人）  
労働力：3.3人/戸  
平均耕作面積：16.5ha（水田37.7ha、畑15.9ha、野菜45.1ha）  
作付品目：たまねぎ38.8ha、水稲37.7ha、麦類15.9ha、スイートコーン1.9ha、にんじん1.2ha、アスパラガス0.3ha、ミニトマト0.3ha、いちご0.2ha、軟白長ねぎ0.1ha

## 1 課題の背景

主要作物の安定的な収量・品質の確保



・ほ場台帳作成に基づく栽培技術の改善  
・地力の維持向上

経営の現状把握と経営管理能力の向上



・経営分析の実施及び改善目標の設定

## 2 活動の経過

### (1) 主要作物の安定的な収量・品質の確保

活動時期	普及方法	延人数	回数	主な活動内容
5～12月	個別対応	51	25	生育調査・収量調査支援、調査結果の報告

### (2) 経営管理能力の向上による経営力の強化

活動時期	普及方法	延人数	回数	主な活動内容
10～3月	戸別巡回	7	5	財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の見方、経営の現状把握、経営分析と改善目標の設定

## 3 成果の具体的内容

### (1) ほ場管理台帳に基づく栽培技術の改善

【玉ねぎ】土壌診断値に基づく適正窒素施肥量（減肥）による生育・収量の確認

表1 生育、収量調査結果

（数値は慣行区を100とした時の減肥区の割合、生育は6月23日調査）

農家名	慣行区に対する 減肥割合(%)	草丈	生葉数	葉鞘径	規格内 収量	粗収益
A	67	96	99	106	105	107
B	80	103	99	101	100	100
C	88	104	104	104	108	108



写真1 JA玉ねぎ部会の視察

### 【ほ場管理台帳】

- ・こういうのが欲しかった👉
- ・ほ場管理台帳を今後活用していきたい！
- ・使用してみて改善案があったら提案します
- ・スマホでも使えたらいいなあ...
- ・みんなでもっといいものにしていきたい!!



## (2) 地力の維持向上

【玉ねぎ】堆肥の増量散布及び新規緑肥の作付

表2 たまねぎ作付農家の土壌物理性改善の取組とR4年の調査結果

農家名	取組内容			R4年の生育、 収量結果(慣行比)
	R2年	R3年	R4年	
A	堆肥増量散布(秋) (R1:0.5トン/10a→R2:1.5トン/10a)	堆肥散布 1.5トン/10a(秋)	堆肥散布 1.5トン/10a(秋)	総収量 規格内収量 93% 102%
B	堆肥増量散布(秋) (R1:0.5トン/10a→R2:1トン/10a)	堆肥散布 1トン/10a(秋)	堆肥散布 1トン/10a(秋)	ほ場全面に散布
C	緑肥作付(ヘアリーベッチ+ひまわり 490a) 新規緑肥作付(ヘイオーツ+ひまわり 10a)	新規緑肥作付 (ヘイオーツ+ひまわり 450a)	新規緑肥作付 (ヘイオーツ+ひまわり 450a)	ほ場全面に作付
D	堆肥増量散布(秋) (R1:堆肥なし→R2:1トン/10a)	堆肥散布 2トン/10a(秋)パラソイラの施工	堆肥散布 2トン/10a(秋)パラソイラの施工	ほ場全面に散布

【水稻】本田の心土破碎による生育の向上

表3 本田の心土破碎による生育量の変化

区分	初期生育調査			成熟期調査				収量調査 (kg/10a)
	草丈 (cm)	茎数 (本/株)(本/m <sup>2</sup> )		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)(本/m <sup>2</sup> )		
試験区	44.5	23.2	501	60.7	17.2	22.4	484	465
慣行区	45.9	23.1	499	61.3	17.0	23.2	501	494
比	97%	100%	100%	99%	101%	97%	97%	94%



写真2 試験区施工後の様子

## (3) 経営分析の実施及び改善目標の設定

令和3年分と令和4年分の財務諸表を比較して、○戸が経営分析の実施と改善目標の設定に至った。

写真3 マーカーによる財務諸表の把握シート



写真4 個別巡回の様子

## 4 結果の考察と今後の活動

推進項目	結果の考察	今後の活動
ほ場管理台帳に基づく栽培技術の改善	玉ねぎ作付け農家3戸で施肥量の改善が実施されたのは、慣行施肥量への疑問や近年の施肥コスト高騰を危惧したため。	玉ねぎの減肥は次年度も継続し、地域への波及を図る。台帳は農業者の意見を基に使用法を含めたバージョンアップを図る。
地力の維持向上	水田の心土破碎幅狭化の実践はR3年に実施し、初期生育の向上が理解されたため。玉ねぎでは収量に差はなかったが、有機物の投入による土作りへの意識が高まったため。	水田は引き続き耕盤層の破壊や作土層を広げる取り組みを農業者とともに検討。玉ねぎの堆肥増量、新規緑肥作付けは重点地区内での取り組み意識が高まったことから通常活動で対応する。
経営管理能力の向上による経営力の強化	自家のデータをグラフ化し見える化したことで視覚的に経営状況を捉えること、経営分析や問題点の抽出ができた。	次年度は経営改善プランの作成・実践に向けた支援を行う。